

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム亀天福寿苑
所在地	愛媛県今治市高部字基石山甲661番地1
自己評価作成日	平成 22年 7月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

場所がら苔や竹、草花など苑の近くにあるものを有効利用して職員の出来る範囲で苑内に飾り付けを行い季節感を利用者様に味わっていただいている。規模は小さいが野菜作りをしたりして利用者様と楽しんでいる。運営推進会議は職員が一丸となってボランティアやご家族様にアプローチを行いより多くのご参加を呼びかけているところである。その為、ご家族様の来苑時には、やってみたい事を伺ってみたり、作った作品を見ていただいたりして、次回の参加をお願いしている。(量表を使った創作活動、うどん作り等)。近隣住民の方や苑の近くを散歩されている方や民生委員さん、自治会長さんにもボランティアをお願いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山の緑に囲まれ静かな環境で、利用者はそのかでゆったりした時間を過ごしている。大きな窓からはしまなみも見えている、管理者は、常に利用者のことを第一に考えて、土に触れられるよう畑づくりをしたり、馴染みの場所へのドライブや進水式見学、運営推進会議でのうどん作りを企画するなど、今後の取り組みにも期待が持てる。近隣住宅は少ないが、地域とのつながりにも力を入れている。母体法人は、病院をはじめ特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム、小規模多機能施設など多くの福祉施設を運営しており、豊富な経験から得られる情報や連携など、グループの協力体制に安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム亀天福寿苑

(ユニット名) 1F タンポポ

記入者(管理者)

氏名 黒井利安

評価完了日 平成 22年 7月 12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で作った理念と亀天福寿苑の理念を掲げその理念に向けケアの実践に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 法人の理念とは別に、現場の職員が全員で考え「一緒に歩み、微笑みを大切にします。」という独自の理念を新しく作り、新任職員が入った時や朝会などでも確認し、共有している。各ユニットにも理念を掲示している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 運営推進会議にて地域の方々と交流していただいたり苑外散歩時には挨拶を交わしたりしている。</p> <p>(外部評価) 山に囲まれて近隣住宅が少ないため、地域とのつながりが難しいが、近くに住む自治会長に運営推進会議に参加してもらうなど関係作りに取り組んでいる。また自宅が近い利用者や職員もおり、地元の友人が訪問するなど地域との交流が広がりつつある。</p>	近隣住民が少ない上に高齢化している地域でつきあいが難しい環境にはあるが、ホームが自治会に入るなど、以前から計画している地域とのつながりを深める取り組みがなされることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の場で認知症についての研修発表や話をしたりして理解を深めていただくように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて苑内の状況報告や現状を話したり何気ないご家族の意見や発言からも希望、要望を聞きとる努力をしサービスの質の向上に努めるようにしている。	
			(外部評価) なるべく多くの人に参加してもらうため、アンケートで希望が多かった土曜日に、行政の協力を得て開催している。報告ばかりの会議では、参加者も少なく発言もあまりないのでどん作りなど行事中心の運営推進会議も試みている。	報告だけの会議では、利用者や家族からの意見が出にくく、イベントのみでは取り組みの状況を把握してもらえなくなる。交互にするとか、報告をしたのちにイベントをするなど工夫されることを希望する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に出席していただきその場で相談や情報交換を行っている。 必要に応じ電話連絡や訪問している。	
			(外部評価) 市の担当者に、土曜開催の運営推進会議に毎回出席してもらい、解らないことがあった時は、管理者が市役所に出向き指導を得ている。研修など新しい情報など教えてもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 危険のある時には必要に応じ一時的に施錠することもあるが、以外は声掛けや見守りで対応している。	
			(外部評価) 玄関だけでなく居室にも鍵をかけないので1階の利用者は居室から外へ出ることも出来るが、見守りをしっかり行っている。たとえ家族から要望があっても身体拘束はしない旨入居の時によく説明している。センサーも設置していないのでフロアに必ず一人は職員がいるよう安全を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に注意を払い虐待のないケアを目指している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を行ったり研修会に参加し理解を深めるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に説明を行いご理解ご納得した上で契約を交わして頂いている。不明な点があれば随時、受け付けるようにご案内している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議以外でも意見、要望があれば随時受け付けることをご案内している。 意見箱の設置している。	
			(外部評価) 家族には、できるだけ面会に来ていただくようお願いし、面会時や電話連絡などで意見を聞いたりしている。家族会や運営推進会議の後の雑談の中で、家族の本音や要望が聞けることがあるので、それらを職員で話し合い運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会で意見を聞いたり、随時意見を聞く体制にあり経営会議で提案している。</p> <p>(外部評価) グループ全体の会議で、理事から職員の要望はないかと聞いてくれている。月一回の職員会の時に話し合う時間もあり、それ以外の時でも管理者が意向を聞いてくれる。研修も希望にそって受講でき、希望の日に休暇も取れる。職員の都合に合わせて、出勤日の変更もできる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 業務遂行表で業務の向上を図っている。その中で悩みの相談が出来る体制にある。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 出来る限り外部研修に参加できるように努め質の向上に努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修会や講習会等で交流を図るようにしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前面接での情報を基にその後もご家族や利用者様からの要望や希望があれば都度受け止め良好な関係作りに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様、ご家族の要望等聞き、又施設側の要望も伝え理解していただきながら良い関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 施設に慣れていただく為、より多くの関わりを持ち信頼関係を築きニーズの把握に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員ベースで物事を進めるのではなく、利用者様の意思を尊重し寄り添う介護ができるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 状況の変化には速やかに電話連絡を行い受診が必要であれば極力ご家族の協力を得る。 面会時にはゆっくり過ごせる環境作りに心がけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 可能であればご家族と外出をしていただけるように支援している。 苑でも極力利用者様の希望をふまえたドライブ等を行い支援している。 (外部評価) 家族には面会に積極的に来てほしいことを伝え、「出入りは自由にしていますから、家族だけでなく友達や近所の人も連れて来て下さい。」とお願いしている。 ふるさとドライブという利用者の懐かしがる場所へ行く企画にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや日々の会話から親しい関係が築けるように配慮しいたわり合う気持ちが持てるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も入院先への様子伺いやご家族のご都合で荷物をしばらくお預かりしたりなど繋がりを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様一人一人との会話を大切にし、普段の何気ない会話の中にご本人の意向が隠れていないか注意している。 (外部評価) 日頃の生活の中で、繰り返す言葉やボツリと漏らす言葉、しぐさなどから気持ちを読み取れることも多いので、それらをヒントに、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サマリーを参考にしたり入居後もご家族様から、利用者様の過去の情報を聞かせていただいたり今までどんな病気をしてどのような経緯で施設での生活を選択したのか等職員が把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 記録だけでなく日々の生活のリズムを観察して、利用者様の生活のペース、リズムの把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 面会時に、ご家族と話す時間を設け、会話の中の何気ない言葉の中から希望や要望を拾い記録として残し、利用者様、ご家族の意見を合わせたケアプランができるように努めている。 (外部評価) 月一回のユニット会での職員の話し合いや家族から意見を聞いて短期目標を把握し、各ユニットごとに計画作成担当者が独自の介護計画を作っている。利用者や家族が本当に困っていることや望むことを計画に入れることによって生活の質を上げるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々、ケアプランの評価を行い職員全員がそれを把握し、実践できるように努めている。出来ることや出来なかったこと等記録に残し職員で話し合い情報の共有に努め見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人内の他部署と交流を図り自立支援に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の行事に参加したり運営推進会議でボランティアを募っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関を有しているがご家族、利用者様に 病院の選択は任している。 必要時には各々の主治医に連絡、相談を行っている。</p> <p>(外部評価) 基本的には、本人や家族が希望するかかりつけ医に家 族が同行し受診することになっているが、緊急時など は職員が病院まで同行し連絡をして家族に来てもらっ ている。かかりつけ医を優先しているが、協力医療機 関との連携もしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職に少しでも利用者様に状態の変化があれば 報告している。 日々のバイタルを看護職に報告している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 定期的に面会に行くように努めている。 同時に病院スタッフと情報交換を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約時に重度化した場合の話をしている。 重度化する前にご家族に状態を説明し、利用者様 ご家族の意向を尊重するように努めている。 主治医にも相談、報告を行い方針を検討する。</p> <p>(外部評価) 看取り経験はまだなく、利用者が医療の必要な状態に なると生活の場であるホームでは看取りは難しいと家 族にも説明している。状況に応じて家族との話し合い がとても大切になると認識している。</p>	<p>重度化や終末期の問題はグループホームにとってこれ から避けて通れない事なので、家族と運営推進会議な どで話し合う機会を持つとともに、職員も利用者への 尊厳の気持ちを大切にしながら、看取りについて一層 理解を深めることが望ましい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会を利用し看護職から指導してもらったり研修等に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に訓練を実施。 職員の安全に対する意識の向上に努めている。 (外部評価) 年2回の定期訓練では、職員が水消火器を実際に使っている。近隣住民は少なく高齢化しているため地域の協力は得られにくい。運営推進会議を通じて協力要請をしている。日頃から避難所の確認をするなど、利用者や職員に意識付けをしている。	地域からの協力を得にくい環境であるが、自治会長とも話し合い少しずつ協力体制を築くことが望ましい。安全な建物や介護スタッフ、備蓄品などを揃えており、災害時には、地域住民に開放するなど地域貢献への取り組みにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけに気をつけたり、排泄の失敗時には利用者様が傷つかないように配慮している。 (外部評価) 利用者一人ひとりに対し人生の先輩として尊敬の念を持ち、言葉遣いには特に気をつけている。排泄の失敗についても、さりげなく処理して誇りを傷つけないよう配慮している。個人情報のある書類は外部に出ないよう厳重に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り利用者様の意思を尊重出来るように努めている。意思疎通の困難な方には職員がご本人の意向を把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 集団生活の為、利用者様全員の希望通りにいかないこともあるが出来る限りご本人のペースを大切にできるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴準備時に職員と一緒に衣類を選んでいる。 月1回の訪問理容も必要時に利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜のカットをしていただいたり、カットから味付けまで全てしていただくこともある。 配膳は難しいが下膳はできる方はどんどんしていただいている。 (外部評価) 週1回、自主献立の日として買い物をして独自の食事を提供している。通常は、メイン料理にレトルト食品も利用しながら、みそ汁、小鉢など各ユニットごとで作っている。利用者の中には、持てる能力を活かして野菜を切るなどの下ごしらえを手伝う方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日食事量の確認を行い記録している。 希望があれば水筒にお茶を入れてお渡ししたりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声掛けや誘導を行い毎食後、口腔ケアを実施。 必要であれば介助も行う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を基に排泄間隔を確認しトイレ誘導を行っている。トイレで排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 排泄パターンをしっかり把握し、紙パンツから徐々に布パンツに変えていっているが、うまくいかない場合は見直しするなど、利用者に不快感を与えないよう自立に向けて支援している。日中は、できるだけトイレを利用するよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 朝のラジオ体操や散歩等で適度な運動と水分補給に心がけ便秘の予防に心がけている。 必要時は主治医の処方した便秘薬を使用。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望に添い行うように心がけている。 無理強いはしないように努めている。 夕方以降の入浴は難しいためゆっくり入浴できるように心がけている。	
			(外部評価) 毎日入浴できるよう準備をしているので、希望する方は毎日、利用者のペースに合わせて最低週2回を目標にしている。失禁やただれなどある時は職員が誘導して入浴を支援している。午後浴を基本とし、お風呂は楽しいというイメージを持ってもらうよう努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中でも希望があれば居室で休んでいただく。 傾眠されている方にはまずは声掛けし家事手伝いを誘ってみたり、苑内外散歩で気分転換を図り、夜間良眠ができるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬確認を行い、必要に応じ介助している。 処方箋はスタッフ全員で確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 可能であれば居室の清掃や、家事手伝いをしてもらい利用者様一人一人の役割作りに努めている。 利用者様の状態に合わせ外気浴や散歩を行い気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 苑での外出行事やご家族様に協力を仰ぎ可能であれば利用者様の希望に添った外出が着るよう努めている。	
			(外部評価) 外出は全員でをモットーにし、ファーストフードや小学校の運動会へも出かけている。家族に連絡して外出支援してもらったこともある。ふるさとドライブや進水式など内容を工夫した外出も計画中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族様と外出された時や、苑の行時でドライブに出かけたときに買い物ができるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要に応じ電話していただいたり、ご家族から電話して頂くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間の清潔に努めている。 季節ごとの花等を飾るようにしている。	
			(外部評価) 日頃から丁寧に清掃し、清潔、きれいを目指している。建物は自然に囲まれているが、共用空間にも季節感を出すように、木の枝や草花などを取ってきて活かしている。職員は七夕や月見など2・3カ月先を考えて、利用者と一緒に飾り物を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 職員が座席の指定をすることは特別にない。 ソファやテーブルにお好きなように座っていた だいている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	(自己評価) 入居前から馴染みの家具等、持参して頂くように十分に説明はするが成果がでていない。 小物や衣類はある程度馴染みのものを持参していただ けている。	
			(外部評価) 入居の際に、新しいものは買わないでできるだけ馴染 みの物を持って来るようお願いしているが、病院か ら来る人も多く馴染みの物はあまりない。ベランダは 広く回廊式になっており、居室から自由に出来るの で、布団を干したり歩いたり、のんびり過ごせる空間 になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫 している	(自己評価) 声掛けや見守りを行いご自分で出来ることはして いただき、出来る範囲での自立をして頂けるように努 めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム亀天福寿苑
所在地	愛媛県今治市高部字基石山甲661番地1
自己評価作成日	平成 22年 7月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

場所がら苔や竹、草花など苑の近くにあるものを有効利用して職員の出来る範囲で苑内に飾り付けを行い季節感を利用者様に味わっていただいている。規模は小さいが野菜作りをしたりして利用者様と楽しんでいる。運営推進会議は職員が一丸となってボランティアやご家族様にアプローチを行いより多くのご参加を呼びかけているところである。その為、ご家族様の来苑時には、やってみたい事を伺ってみたり、作った作品を見ていただいたりして、次回の参加をお願いしている。(量表を使った創作活動、うどん作り等)。近隣住民の方や苑の近くを散歩されている方や民生委員さん、自治会長さんにもボランティアをお願いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山の緑に囲まれ静かな環境で、利用者はのどかでゆったりした時間を過ごしている。大きな窓からはしまなみも見えている、管理者は、常に利用者のことを第一に考えて、土に触れられるよう畑づくりをしたり、馴染みの場所へのドライブや進水式見学、運営推進会議でのうどん作りを企画するなど、今後の取り組みにも期待が持てる。近隣住宅は少ないが、地域とのつながりにも力を入れている。母体法人は、病院をはじめ特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム、小規模多機能施設など多くの福祉施設を運営しており、豊富な経験から得られる情報や連携など、グループの協力体制に安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム亀天福寿苑

(ユニット名) 2F コスモス

記入者(管理者)
氏名 黒井利安

評価完了日 平成 22年 7月 12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員が話し合った理念と亀天福寿苑の理念を掲げ日々のケアの実践に反映できるように取り組んでいます。</p> <p>(外部評価) 法人の理念とは別に、現場の職員が全員で考え「一緒に歩み、微笑みを大切にします。」という独自の理念を新しく作り、新任職員が入った時や朝会などでも確認し、共有している。各ユニットにも理念を掲示している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 苑外散歩時に野菜をいただいたり、世間話をしながら一緒に歩いたり、つくしやセリの群生地を教えていただいてその場所に出かけている。</p> <p>(外部評価) 山に囲まれて近隣住宅が少ないため、地域とのつながりが難しいが、近くに住む自治会長に運営推進会議に参加してもらうなど関係作りに取り組んでいる。また自宅が近い利用者や職員もおり、地元の友人が訪問するなど地域との交流が広がりつつある。</p>	近隣住民が少ない上に高齢化している地域でつきあいが難しい環境にはあるが、ホームが自治会に入るなど、以前から計画している地域とのつながりを深める取り組みがなされることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の機会に手芸(畳・うどん打ち)など苑行事に参加していただき理解や支援を深めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 苑内の現状報告や行事報告を行い、ご意見を伺いサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) なるべく多くの人に参加してもらうため、アンケートで希望が多かった土曜日に、行政の協力を得て開催している。報告ばかりの会議では、参加者も少なく発言もあまりないので、どん作りなど行事中心の運営推進会議も試みている。	報告だけの会議では、利用者や家族からの意見が出にくく、イベントのみでは取り組みの状況を把握してもらえなくなる。交互にするとか、報告をしたのちにイベントをするなど工夫されることを希望する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に出席していただいたり、困難事例等の対応の仕方など連携してケアに生かせるように関わっている。	
			(外部評価) 市の担当者に、土曜開催の運営推進会議に毎回出席してもらい、解らないことがあった時は、管理者が市役所に出向き指導を得ている。研修など新しい情報など教えてもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 危険を回避するために一時的に施錠をすることもあるが、利用者様へは常に声掛けや見守りで取り組んでいる。	
			(外部評価) 玄関だけでなく居室にも鍵をかけないので1階の利用者は居室から外へ出ることも出来るが、見守りをしっかり行っている。たとえ家族から要望があっても身体拘束はしない旨入居の時によく説明している。センサーも設置していないのでフロアに必ず一人は職員がいるよう安全を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待のない介護に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を行ったり、研修会に参加したりして制度の理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に説明を行いご理解ご納得した上で契約を交わして頂いている。不明な点があれば随時、受け付けるようにご案内している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議以外でも意見、要望があれば随時受け付けることをご案内している。 意見箱の設置している。	
			(外部評価) 家族には、できるだけ面会に来ていただくようお願いし、面会時や電話連絡などで意見を聞いたりしている。家族会や運営推進会議の後の雑談の中で、家族の本音や要望が聞けることがあるので、それらを職員で話し合い運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で意見を聞いたり、随時意見を聞く体制にあり経営会議で提案している。	
			(外部評価) グループ全体の会議で、理事から職員の要望はないかと聞いてくれている。月一回の職員会の時に話し合う時間もあり、それ以外の時でも管理者が意向を聞いてくれる。研修も希望にそって受講でき、希望の日に休暇も取れる。職員の都合に合わせて、出勤日の変更もできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 業務遂行表で業務の向上を図っている。その中で悩みの相談げ出来る体制にある。トラブルがあった時にはその日のスタッフ間で対応を統一する等チームワーク作りに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 出来る限り外部研修に参加できるように努め質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会や講習会等で交流を図るようにしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接を行い、ご本人の状況やご家族の要望を聞かせていただいてケアに反映させていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 分からないことが発生した時にはキーパーソンの方に電話をして確認しながら関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ケアサービスの現状をその時々で見極めスタッフ間で相談しながら方向性を決めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員ペースで物事を進めるのではなく、利用者様の意思を尊重し寄り添う介護ができるように努めている。 利用者様と行事前には話し合い関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来苑時には状況報告を行い、苑便りには各担当がご家族に状況を書いている。職員との関係づくりに努め病院受診時には依頼している。 意向の聞き取りにも努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族との外出や外泊をしていただいている。 面会時にはゆっくり話の出来る環境づくりに努めている。 (外部評価) 家族には面会に積極的に来てほしいことを伝え、「出入りは自由にしていますから、家族だけでなく友達や近所の人も連れて来て下さい。」とお願いしている。 ふるさとドライブという利用者の懐かしがる場所へ行く企画にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや行事を通じて出来ること、出来ないことの見極めを行い相互の関係作りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方の面会や、入院時にはお見舞いに出かけ相互の関係作りに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様一人一人との会話を大切に、普段の何気ない会話の中にご本人の意向が隠れていないか注意している。 (外部評価) 日頃の生活の中で、繰り返す言葉やボツリと漏らす言葉、しぐさなどから気持ちを読み取れることも多いので、それらをヒントに、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前面接を確認し、追加する事項があれば職員同士で話し合いをしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りの共有、関わった職員からの聞き取りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 必要時、カンファレンスや定期的なカンファレンスでプランを修正しながら現状に即したプランで対応出来るように努めている。	
			(外部評価) 月一回のユニット会での職員の話し合いや家族から意見を聞いて短期目標を把握し、各ユニットごとに計画作成担当者が独自の介護計画を作っている。利用者や家族が本当に困っていることや望むことを計画に入れることによって生活の質を上げるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々、ケアプランの評価を行い職員全員がそれを把握し、実践できるように努めている。 出来ることや出来なかったこと等記録に残し職員で話し合い情報の共有し見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 要望に対してはレク、行事等に反映するように努めている。デイケアのスタッフの方とも連携しサービスの変更修正に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の行事に参加したり運営推進会議でボランティアを募っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関を有しているがご家族、利用者様に 病院の選択は任している。 必要時には各々の主治医に連絡、相談を行っている。</p> <p>(外部評価) 基本的には、本人や家族が希望するかかりつけ医に家 族が同行し受診することになっているが、緊急時など は職員が病院まで同行し連絡をして家族に来てもらっ ている。かかりつけ医を優先しているが、協力医療機 関との連携もしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者様からの毎日の聞き取りやバイタルチェックを 行い看護職に報告し必要時に指示を仰いでいる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院に際しては、ご家族や病院関係者に電話をしたり お見舞い時に治療方針等を伺いケアに反映している。 内服や次回受診日の把握に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約時に重度化した場合の話をしている。 重度化する前にご家族に状態を説明し、利用者様 ご家族の意向を尊重するように努めている。 主治医にも相談、報告を行い方針を検討する。</p> <p>(外部評価) 看取り経験はまだなく、利用者が医療の必要な状態に なると生活の場であるホームでは看取りは難しいと家 族にも説明している。状況に応じて家族との話し合い がとても大切になると認識している。</p>	<p>重度化や終末期の問題はグループホームにとってこれ から避けて通れない事なので、家族と運営推進会議な どで話し合う機会を持つとともに、職員も利用者への 尊厳の気持ちを大切にしながら、看取りについて一層 理解を深めることが望ましい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) インシデント報告時にはユニット内でチームカンファレンスを行い事故防止に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期の避難訓練で職員、ご利用者様の安全に対する意識の向上に努めている。避難場所の確認や通報訓練も行っている。 (外部評価) 年2回の定期訓練では、職員が水消火器を実際に使っている。近隣住民は少なく高齢化しているため地域の協力は得られにくい。運営推進会議を通じて協力要請をしている。日頃から避難所の確認をするなど、利用者や職員に意識付けをしている。	地域からの協力を得にくい環境であるが、自治会長とも話し合い少しずつ協力体制を築くことが望ましい。安全な建物や介護スタッフ、備蓄品などを揃えており、災害時には、地域住民に開放するなど地域貢献への取り組みにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 理念に添える形でスタッフ間でケアを統一し利用者様の人格を尊重した対応に努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりに対し人生の先輩として尊敬の念を持ち、言葉遣いには特に気をつけている。排泄の失敗についても、さりげなく処理して誇りを傷つけないよう配慮している。個人情報のある書類は外部に出ないよう厳重に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り利用者様の意思を尊重出来るように努めている。意思疎通の困難な方には職員がご本人の意向を把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事や入浴の時間を利用者様の希望に添える形でケア出来るように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に好みや着やすいものを選択して一緒に片付けする中で利用者様のモノに対する思いを把握できるように努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜で漬物を作ったり盛りつけを一緒に行ったりしている。手作りのおやつ作り等も活かして利用者様に楽しんでいただいている。 (外部評価) 週1回、自主献立の日として買い物をして独自の食事を提供している。通常は、メイン料理にレトルト食品も利用しながら、みそ汁、小鉢など各ユニットごとで作っている。利用者の中には、持てる能力を活かして野菜を切るなどの下ごしらえを手伝う方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分の多い果物を食べていただいたり10時と15時のおやつ以外でも飲水を自由にしていただいている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は洗面所への声掛け、誘導を行い習慣化している。 必要に応じ介助も行う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を基に声掛け、誘導を行っている。必要時、トイレ誘導で対応している。	
			(外部評価) 排泄パターンをしっかり把握し、紙パンツから徐々に布パンツに変えていっているが、うまくいかない場合は見直しするなど、利用者に不快感を与えないよう自立に向けて支援している。日中は、できるだけトイレを利用するよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給に心がけ便秘時には看護職と連携し下剤の服薬で対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 浴槽につかる時間はできる限り利用者様の希望に添えるように対応している。気の合った方同士、誘いあって入られることもある。	
			(外部評価) 毎日入浴できるよう準備をしているので、希望する方は毎日、利用者のペースに合わせて最低週2回を目標にしている。失禁やただれなどある時は職員が誘導して入浴を支援している。午後浴を基本とし、お風呂は楽しいというイメージを持ってもらうよう努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中でも希望があれば居室で休んでいただく。傾眠されている方にはまずは声掛けし家事手伝いを誘ってみたり、苑内外散歩で気分転換を図り、夜間良眠ができるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬確認を行い、必要に応じ介助している。 処方箋はスタッフ全員で確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 誕生会には利用者様の手作りに加え、お祝いの言葉等をいただいたり、壁面レクを分担して作っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や外気浴に加え近くのスーパーに行くことができるように努めている。	
			(外部評価) 外出は全員でをモットーにし、ファーストフードや小学校の運動会へも出かけている。家族に連絡して外出支援してもらうこともある。ふるさとドライブや進水式など内容を工夫した外出も計画中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族様と外出された時や、苑の行時でドライブに出かけたときに買い物ができるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族への電話の取り次ぎや誕生日にはお祝いの言葉が頂けるように依頼している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間の清潔に努めている。 季節ごとの花等を飾るようにしている。	
			(外部評価) 日頃から丁寧に清掃し、清潔、きれいを目指している。建物は自然に囲まれているが、共用空間にも季節感を出すように、木の枝や草花などを取ってきて活かしている。職員は七夕や月見など2・3カ月先を考えて、利用者と一緒に飾り物を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テーブル席やソファ等を利用者様の状態で席を移動したり配置を変えている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前から馴染みの家具等、持参して頂くように十分に説明はするが成果がでていない。 小物や衣類はある程度馴染みのものを持参していただけている。	
			(外部評価) 入居の際に、新しいものは買わないでできるだけ馴染みの物を持って来るようお願いしているが、病院から来る人も多く馴染みの物はあまりない。ベランダは広く回廊式になっており、居室から自由に出入れるので、布団を干したり歩いたり、のんびり過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 標示をしたり飾りを置くなど目印をつけて分かりやすい環境作りをしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム亀天福寿苑
所在地	愛媛県今治市高部字基石山甲661番地1
自己評価作成日	平成 22年 7月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

場所がら苔や竹、草花など苑の近くにあるものを有効利用して職員の出来る範囲で苑内に飾り付けを行い季節感を利用者様に味わっていただいている。規模は小さいが野菜作りをしたりして利用者様と楽しんでいる。運営推進会議は職員が一丸となってボランティアやご家族様にアプローチを行いより多くのご参加を呼びかけているところである。その為、ご家族様の来苑時には、やってみたい事を伺ってみたり、作った作品を見ていただいたりして、次回の参加をお願いしている。(量表を使った創作活動、うどん作り等)。近隣住民の方や苑の近くを散歩されている方や民生委員さん、自治会長さんにもボランティアをお願いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山の緑に囲まれ静かな環境で、利用者のはのどかでゆったりした時間を過ごしている。大きな窓からはしなみも見えている、管理者は、常に利用者のことを第一に考えて、土に触れられるよう畑づくりをしたり、馴染みの場所へのドライブや進水式見学、運営推進会議でのうどん作りを企画するなど、今後の取り組みにも期待が持てる。近隣住宅は少ないが、地域とのつながりにも力を入れている。母体法人は、病院をはじめ特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム、小規模多機能施設など多くの福祉施設を運営しており、豊富な経験から得られる情報や連携など、グループの協力体制に安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム亀天福寿苑

(ユニット名) 3F ひまわり

記入者(管理者)
氏名 黒井利安

評価完了日 平成 22年 7月 12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ユニットに亀天福寿苑の理念と職員全員で作った理念を掲げ日々のケアに生かせるように実践し取りくんでいる。</p> <p>(外部評価) 法人の理念とは別に、現場の職員が全員で考え「一緒に歩み、微笑みを大切にします。」という独自の理念を新しく作り、新任職員が入った時や朝会などでも確認し、共有している。各ユニットにも理念を掲示している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事に参加したり苑内の行事には地域及びご家族の方々に参加していただいている。</p> <p>(外部評価) 山に囲まれて近隣住宅が少ないため、地域とのつながりが難しいが、近くに住む自治会長に運営推進会議に参加してもらうなど関係作りに取り組んでいる。また自宅が近い利用者や職員もおり、地元の友人が訪問するなど地域との交流が広がりつつある。</p>	近隣住民が少ない上に高齢化している地域でつきあいが難しい環境にはあるが、ホームが自治会に入るなど、以前から計画している地域とのつながりを深める取り組みがなされることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して相談や研修発表、苑の現状報告を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を実施し苑内の現状や行事報告を行いサービスの向上に努めている。何気ない会話等から希望や要望を聞きとる努力をしている。	
			(外部評価) なるべく多くの人に参加してもらうため、アンケートで希望が多かった土曜日に、行政の協力を得て開催している。報告ばかりの会議では、参加者も少なく発言もあまりないのでどん作りなど行事中心の運営推進会議も試みている。	報告だけの会議では、利用者や家族からの意見が出にくく、イベントのみでは取り組みの状況を把握してもらえなくなる。交互にするとか、報告をしたのちにイベントをするなど工夫されることを希望する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき情報交換等を行っている。	
			(外部評価) 市の担当者に、土曜開催の運営推進会議に毎回出席してもらい、解らないことがあった時は、管理者が市役所に出向き指導を得ている。研修など新しい情報など教えてもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 危険回避をするために利用者様の状況をみて施錠することもあるが利用者様個々の状態を把握し声掛け、見守りを行い対応している。	
			(外部評価) 玄関だけでなく居室にも鍵をかけないので1階の利用者は居室から外へ出ることも出来るが、見守りをしっかり行っている。たとえ家族から要望があっても身体拘束はしない旨入居の時によく説明している。センサーも設置していないのでフロアに必ず一人は職員がいるよう安全を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止マニュアルを作成し機会のあるたびに周知徹底している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会や研修にて制度の理解を高めている。必要に応じて相談に乗る考えがある。 (現在は対象者はいない)	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者様のご家族に十分な説明を行い、個々に配慮等の話し合いを行っている。見学なども行い理解していただいている。不明な点があれば随時、受け付けるように案内している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様からの意見、相談を聞いたりご家族からの意見、要望等を聞くことで運営に反映させている。意見箱の設置もしている。 (外部評価) 家族には、できるだけ面会に来ていただくようお願いし、面会時や電話連絡などで意見を聞いたりしている。家族会や運営推進会議の後の雑談の中で、家族の本音や要望が聞けることがあるので、それらを職員で話し合い運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会にて話し合いを行っている。それ以外に掲示版を利用したりし意見を求めている。 経営会議等で集めた意見を提案している。</p> <p>(外部評価) グループ全体の会議で、理事から職員の要望はないかと聞いてくれている。月一回の職員会の時に話し合う時間もあり、それ以外の時でも管理者が意向を聞いてくれる。研修も希望にそって受講でき、希望の日に休暇も取れる。職員の都合に合わせて、出勤日の変更もできる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 業務遂行表で業務の向上を行っている。 その中で悩みの相談ができる体制がある。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修や講習会を掲示板にて連絡し希望があれば参加出来るようにしている。その後職員会等で研修報告を行い情報を共有するようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修会や講習会等で交流を図るようにしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) ご家族や利用者様と話をして様々な情報と照らし合わせ関係作りに役立っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 話を聞かせていただきそして、相談できるような雰囲気作りをして関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者様とご家族に希望を伺いより良い支援が出来るように努めている。 普段の何気ない会話から何が必要かとういことを聞きとるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常的な生活の中で職員や入居者で互いに助け合いながら関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には苑での生活状況などをお伝えしてより良い関係づくりに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族様と密に連絡をし近況報告を行い関係が途切れないように努めている。 利用者様の友人等にも面会に来ていただいている。 (外部評価) 家族には面会に積極的に来てほしいことを伝え、「出入りは自由にしていますから、家族だけでなく友達や近所の人も連れて来て下さい。」とお願いしている。 ふるさとドライブという利用者の懐かしがる場所へ行く企画にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士、互いに仲良く助け合っていることが多いが気分により不穏状態になることもあるので注意している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 可能な限り面会やお見舞いで話をしている。関係を継続していけることを大切に思っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の希望や意向の把握に努めている。何気ない日常の会話を大切にしている。	
			(外部評価) 日頃の生活の中で、繰り返す言葉やボツリと漏らす言葉、しぐさなどから気持ちを読み取れることも多いので、それらをヒントに、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前にも生活歴を聞かせていただくが入居後もご家族から情報を集めるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 身体状態や精神状態等を日々観察することで現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 面会時や定期受診時などにご家族と話あったり、必要 に応じ電話連絡を行う。 時に主治医にも相談し現状に即したものを作成するよ うに努めている。	
			(外部評価) 月一回のユニット会での職員の話し合いや家族から意 見を聞いて短期目標を把握し、各ユニットごとに計画 作成担当者が独自の介護計画を作っている。利用者や 家族が本当に困っていることや望むことを計画に入れ ることによって生活の質を上げるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 毎日の生活記録を記入しヶ月ごとに暮らしの状況 表等で評価できるようにし、実践や計画の見直しに 役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 法人内で他部署との交流を図り、自立支援に向けて 取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 小学校の運動会等、地域の行事に参加したりして 交流を図っている。 運営推進会議でボランティアを募っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関を有しているが利用者様、ご家族に 病院の選択は任している。 状態に応じて随時連絡をとり指示を仰いでいる。</p> <p>(外部評価) 基本的には、本人や家族が希望するかかりつけ医に家 族が同行し受診することになっているが、緊急時など は職員が病院まで同行し連絡をして家族に来てもらっ ている。かかりつけ医を優先しているが、協力医療機 関との連携もしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職に少しでも利用者様に変化があれば報告して いる。 日々のバイタルを看護職に報告している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 定期的な面会に行き状態の確認をするともに、病院 のスタッフと情報の交換を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約時に重度化した場合の話をしている。 重度化した時にはご家族に状態を説明し、ご本人 ご家族の意向を尊重するように努めている。 主治医にも相談、報告を行い方針を検討している。</p> <p>(外部評価) 看取り経験はまだなく、利用者が医療の必要な状態に なると生活の場であるホームでは看取りは難しいと家 族にも説明している。状況に応じて家族との話し合い がとても大切になると認識している。</p>	<p>重度化や終末期の問題はグループホームにとってこれ から避けて通れない事なので、家族と運営推進会議な どで話し合う機会を持つとともに、職員も利用者への 尊厳の気持ちを大切にしながら、看取りについて一層 理解を深めることが望ましい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会を利用し、看護職から指導してもらったり研修等に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 3階建の為、危険を意識し定期的に訓練を行い職員の安全に対する意識の向上に努めている。 (外部評価) 年2回の定期訓練では、職員が水消火器を実際に使っている。近隣住民は少なく高齢化しているため地域の協力は得られにくい。運営推進会議を通じて協力要請をしている。日頃から避難所の確認をするなど、利用者や職員に意識付けをしている。	地域からの協力を得にくい環境であるが、自治会長とも話し合い少しずつ協力体制を築くことが望ましい。安全な建物や介護スタッフ、備蓄品などを揃えており、災害時には、地域住民に開放するなど地域貢献への取り組みにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけに気をつけているがまだ十分ではない。個人情報や記録の取扱いには十分注意している。 (外部評価) 利用者一人ひとりに対し人生の先輩として尊敬の念を持ち、言葉遣いには特に気をつけている。排泄の失敗についても、さりげなく処理して誇りを傷つけないよう配慮している。個人情報のある書類は外部に出ないよう厳重に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り利用者様の希望を聞いたり、職員が読み取る努力を行い自身の望むような支援に心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 集団生活で重度の認知症の方が多いためご本人の希望に添えてないこともあると思うが出来る限りご本人のペースで生活できるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 苑への出張理容を利用したり、ご家族様が来苑し散髪されることもある。ご自身の好みの化粧水や乳液を選び使用できるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る方には野菜のカットをしていただいている。配膳は難しいが下膳の出来る方にはしていただいている。	
			(外部評価) 週1回、自主献立の日として買い物をして独自の食事を提供している。通常は、メイン料理にレトルト食品も利用しながら、みそ汁、小鉢など各ユニットごとで作っている。利用者の中には、持てる能力を活かして野菜を切るなどの下ごしらえを手伝う方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量を記録し各々、一月分のチェックが出来るようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者様ごとに口腔ケアを行い、必要に応じて職員が介助を行う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を利用し、トイレ誘導や声掛けを行っている。トイレでの排泄を心がけているが、パットや紙パンツの使用の減少までには至っていない。	
			(外部評価) 排泄パターンをしっかり把握し、紙パンツから徐々に布パンツに変えていっているが、うまくいかない場合は見直しするなど、利用者に不快感を与えないよう自立に向けて支援している。日中は、できるだけトイレを利用するよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給に心がけて散歩や生活リハビリを行い適度な運動に心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴するか、しないかは極力、利用者様の希望に合わせている。夕方以降の入浴は難しいがゆっくりと入浴出来るように支援している。必要時、便秘薬を使用している。	
			(外部評価) 毎日入浴できるよう準備をしているので、希望する方は毎日、利用者のペースに合わせて最低週2回を目標にしている。失禁やただれなどある時は職員が誘導して入浴を支援している。午後浴を基本とし、お風呂は楽しいというイメージを持ってもらうよう努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様の個々の生活習慣を大切にしているため、ご本人の希望で可能な時間であれば出来る限りホールで過ごしていただき夜間良眠ができるように努めている。 日中も自由に部屋で休息していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬確認を行い必要に応じ介助している。 処方箋はスタッフ全員で確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ドライブ、行事等を定期的に取り入れている。 以外でも利用者様の状態に合わせ散歩や外気浴を行い気分転換が図れるように心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族様にも協力を仰ぎ利用者様の希望に添った外出ができるようにしている。	
			(外部評価) 外出は全員でをモットーにし、ファーストフードや小学校の運動会へも出かけている。家族に連絡して外出支援してもらおうこともある。ふるさとドライブや進水式など内容を工夫した外出も計画中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族様と外出された時や、行事でドライブに行ったときにちょっとした買い物をさせていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要に応じ電話していただいたり、ご家族様から電話していただくようにしている。手紙は職員がお預かりし投函している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間の清潔には心がけている。 季節ごとの草花や展示物を飾るように努めている。	
			(外部評価) 日頃から丁寧に清掃し、清潔、きれいを目指している。建物は自然に囲まれているが、共用空間にも季節感を出すように、木の枝や草花などを取ってきて活かしている。職員は七夕や月見など2・3カ月先を考えて、利用者と一緒に飾り物を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホール内では特に座席の指定はしないで、その時々でお好きな席に座っていただくようにしている。ホール内は広く居室以外で一人で過ごせるようにはなっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前に馴染みの家具等を持参していただくよに十分説明はするが成果があまりでない。 小物や衣類などはある程度持参していただいている。	
			(外部評価) 入居の際に、新しいものは買わないでできるだけ馴染みの物を持ってくるようお願いしているが、病院から来る人も多く馴染みの物はあまりない。ベランダは広く回廊式になっており、居室から自由に出入れるので、布団を干したり歩いたり、のんびり過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 声掛けや見守りを行い、ご自分で出来ることはしていただき出来る範囲での自立をしていただけるよう努めている。	